

飛躍！印旛明誠高校

校訓：至誠

印西市草深 1420-9 0476-47-7001

賞状伝達式・全校集会

12月22日賞状伝達式があった。

10月4日に行われた印西警察署主催の防犯フェスタに本校吹奏楽部が参加し、そこで演奏をした吹奏楽部に対して、印西警察署永田陽一部署長から感謝状が授与された。また森本校長から



以下の生徒が表彰された。第19回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 男子1500m第3位 2C 小宮堯君(木刈中) 2015年度実用英語技能検定2級合格 3A 松室杏奈さん(栄東中) 3B 新田彩乃さん(木刈中) 2D 横田光君(桜台中) 第61回青少年読書感想文コンクール高等学校の部優秀賞 2A 小澤美鈴さん(小林中) その他実用英語技能検定準2級に合格した生徒7名、読書感想文千葉県コンクール高等学校の部で佳作に入選した生徒2名が紹介された。

全校集会では森本校長の講話があった。『知覚動考』、教室掲示されている今月の言葉であったが、その意味する内容を説明。「物事を知る、そして覚える、物事を覚えたらすぐに行動する、動いてうまくいかなかったら考える、改善する、工夫する。人間の成長する順番もまさしく、知覚動考すなわち、知り、覚え、動き、考えるという順に成長していくのだが・・・もの心ついたころから、だんだんと恥ずかしさを覚えるようになり知覚考動となる。知覚考動ならまだしも、成長するにしたがって知り、覚え、考え、動かないということが多くなる。」と自らの経験を踏まえながら語った。最後に「何かに悩んだ時、何かにつまづいた時『ともかくうごこう』と口ずさんでください。結果はあとからついてくる。ぐずぐずしてないでともかく動きましょう！」



うに」といった言葉を掛けられる。それ以外にも、女の子は親が決めた結婚相手と結婚しなければならなかったり、家事をすることを強要され、仕事の選択もできない。これに反すると、「名誉のため」と言って、親に殺されることもあるそうだ。もし、私がパキスタンで生まれていたら、「自分は生まれてこなければ良かったのか」と自分を否定してしまいそうだ。毎日生きることをさえ辛く、耐えられないかもしれない。(途中省略)こういうことが「常識」となっている中、マララは声をあげた。女性たちは「生まれながらに決められた生き方」に疑問を持つべきだと。そして、「自分で決める生き方」を求めていくべきだと。マララは自分が周りから非難されるとわかっていても、声をあげられない人にかわって、訴えたのだ。きっと怖かっただろう。しかし、ただ「生きていくだけ」ではなく、自分で決めて生きたいという強い思いが、声をあげる勇気へとつながったのだと思う。もし自分がマララの立場だったなら、一番に声をあげられたらどうか。あげられなかったかもしれない。しかし、マララを知り自分もマララのように生きたいと思った。そのためには、違う視点から物事を見つめること、そして常識にとらわれず、自分の頭で考えることが必要だ。また、人生の良いも悪いも、自分自身で責任を持って選択する勇気を持たなくてはならないと改めて思った。そうすることで、「決められた生き方」から「自分で決める生き方」へと変えられると考える。

(途中省略)最後に、この本を通してわかったことは、「自分で決める生き方」をするには、「教育」が必要だということである。学校に行くことにより、沢山の知識を得ること、経験することによって、自分の可能性を見出すことができるからだ。「教育」によって知識を得ないと、自分の人生を選ぶことはできない。また、知識がないと選択に偏りがでてきてしまう。誰もが教育を受けることで満足した生き方ができれば、安定した社会へと繋がっていくだろう。私は、今まで何の思いもなく教育を受けてきた。しかし、教育を受けたくても受けられないパキスタンの現状を知り、今自分が教育を受けれていることは奇跡なのだと思う。私は恵

まれている。それだけで、終わってはいけないと思う。これからは、

『マララ～教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』を読んで

第61回青少年読書感想文コンクール優秀賞作品(抜粋) 小澤 美鈴

「常識は正しいか」と問われたら、大多数の人は何と答えるだろうか。「正しい」と答える人が多いのではないだろうか。しかし私は、常識が常に正しいとは限らないのだと、この本を読んで学んだ。本の中では、現在のパキスタンは「女の子は学校に通わない」のが常識だと書かれていた。しかし、それはおかしいと思った。始めから、女の子が自分の可能性を広げることを周りが制限していることと同じだと感じたからだ。パキスタンでは女の子が誕生しても、誰も祝うことはない。むしろ、母親は「役に立たない子を産んでかわいそ

ただ教育受けているだけという「受身」の気持ちではなく、自分から積極的に沢山の知識を得ていこうと強く思った。「教育を受ける」、それは私たちが平和に生きていくための第一歩である。【受賞後の感想】優秀賞を受賞することができ、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。忙しい中ご指導くださった先生、支えて下さった多くの方々、貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

